

清流だより

令和3年10月22日(金)

北西中学校だより 発行 須田浩孝



学校教育目標

「心豊かで かしこく

たくましい生徒の育成」

全国学力・学習状況調査の結果について

I はじめに

本年5月に全国の中学校3年生を対象に実施された「全国学力・学習状況調査」に本校の3年生も参加しました。

これまでと同様「国語」「数学」の2教科が調査対象となり、「学習状況調査」を併せて実施されました。

このたび、本校の分析結果がまとまりましたのでその概要をお知らせし、HPにも掲載いたします。また、調査結果の分析をもとに課題点や改善点等について職員間で共通理解を図り、すべての生徒に確かな学力を育むことができるよう、引き続き授業改善等に取り組んで参ります。

II 本校の状況(平均正答率で見た本校の状況)

	国語	数学
全国平均との比較	○	○
山梨県平均との比較	○	○

本校は、国語・数学ともに全国平均・山梨県平均を上回る結果でした。

III 国語・数学・生徒質問紙の状況

①国語

◎正答率が全国・県平均を大幅に(5ポイント以上)上回った設問(14問中7問)

- ・話し合いの話題や方向を捉えることができる。
- ・書いた文章を互いに読み合い、文章の構成の工夫を考えることができる。
- ・文脈の中における語句の意味を理解することができる。
- ・場面の展開、登場人物の心情や行動に注意して読み、内容を理解することができる。
- ・相手や場に応じて敬語を適切に使うことができる。
- ・伝えたい事柄が相手に効果的に伝わるように書くことができる。
- ・文脈に即して漢字を正しく読むことができる。

△正答率が全国・県平均を下回った設問(14問中1問)

- ・書いた文章を読み返し、語句や文の使い方、段落相互の関係に注意して、書くことができる。

○全校・県平均を上回っているが正答率の低かった設問

- ・文章に表れているものの見方や考え方と捉え、自分の考えを持つことができる。

◇今後の取り組み

- ・14問中7問は、無回答がなかった。また、正答率は低かった記述式の問題についても、県平均より7%、全国平均より10パーセント近く無回答率が低かったことから、記述のような問題においても「最後まで取り組もうとする」生徒が多いと考えられる。今後も正解にこだわらず、頑張り続けようとする姿勢を大切にしていきたい。

- ・「文脈に即して漢字を正しく書くことができる。」については、授業の中や家庭学習の中で取り組んできた結果、正答率が100パーセントに近かった。今後も引き続き指導し、語彙の習得と語感の育成に努めていきたい。
- ・正答率の低かった「書いた文章を読み返し、語句や文の使い方、段落相互の関係に注意して書く」については、普段から、書いた文章を読み返したり、語句や文の使い方などに注意したりすることを授業の中で計画的に取り組んでいくと同時に普段の生活の中でも（「生活学習ノート」「行事後などの作文」等）指導を行っていききたい。
- ・全国・県平均よりは上回っていたが正答率の低かった「文章に表れているものの見方や考え方と捉え、自分の考えを持つ」については、授業において、まず、文章に書かれている内容を理解させ、次に具体的な事例を挙げながら自分の考えを持てるような指導をしていきたい。

②数学

◎正答率が全国・県平均を大幅に（5ポイント以上）上回った設問（16問中11問）

- ・具体的な場面で、一元一次方程式をつくることができる。
- ・扇形の中心角と弧の長さや面積との関係について理解している。
- ・関数の意味を理解している。
- ・問題場面における考察の対象を明確に捉えることができる。
- ・目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができる。
- ・数学的な結果を事象に即して解釈し、事柄の特徴を数学的に説明することができる。
- ・ヒストグラムからある階級の度数を読み取ることができる。
- ・相対度数の必要性和意味を理解している。
- ・平行四辺形になるための条件を用いて、四角形が平行四辺形になること理由を説明することができる。
- ・錯角が等しくなるための、2直線の位置関係を理解している。
- ・ある条件の下で、いつでも成り立つ図形の性質を見だし、それを数学的に表現することができる。

△正答率が全国・県平均を下回った設問（16問中2問）

- ・事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる。
- ・データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる。

○その他

- ・無回答率が全国・県平均よりも低かった。最後まであきらめずに回答している様子が見える。
- ・全体的な傾向として、全国・県の平均を大幅に上回っていたが、問題形式が選択式、短答式、記述式と記述の増加によって徐々に全国・県の平均正答率に近づいていた。

◇今後の取組

- ・関数や資料の活用について、既習事項の確認を行いながら3年生の学習内容につなげる。また、具体的な事象についての関数やグラフの読み取り、考察ができるように、問題を設定する。

・授業やテスト、小テストにおいても記述して表現する場面を設定し、思考力・表現力の向上を図る。

③生徒質問紙

○生活習慣・自分自身について

- ・朝食摂取率については、94パーセントの生徒がほぼ毎日朝食を摂取している。
- ・SNS等の使い方について保護者との約束を守って使用していると答えた生徒は、全国平均より14パーセント、県平均より9パーセントほど上回っており、約8割の生徒が約束を守って使用していると回答している。
- ・普段（月曜日から金曜日）1日あたりのゲーム（テレビゲーム・コンピュータゲーム・スマートフォンなどを使ったゲームを含む）をしている時間が4時間以上の生徒は、県平均より7パーセント上回っている。3時間以上4時間未満の生徒と合わせて、35%の生徒が平日、1日3時間以上ゲームを行っている。
- ・「自分でやると決めたことは、やり遂げようとしている」「人が困っているときは、進んで助けようとする」「人の役に立つ人間になりたい」「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」と回答した生徒は、全国平均より7～14パーセント高い。

○学校生活について

- ・「自分と違う意見について考えるのは楽しい」と回答した生徒は、県平均より7パーセント、全国平均より12パーセントほど上回っている。
- ・「友達と協力するのは楽しい」と回答した生徒は、全国平均より8パーセント上回っている。

○学校での学習について

- ・1,2年生で受けた授業では、「課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた」と回答した生徒は、全国平均より17パーセント、県平均より11パーセント上回っている。
- ・「友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができている」と回答した生徒は、全国より19パーセント、県平均より10パーセント上回っている。
- ・「学級の中で、学級をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの良さを生かして解決方法を決めて取り組んでいる」と回答した生徒は、全国平均より10パーセント、県平均より6パーセント上回っている。
- ・「授業で学習したことは、将来、社会に出て役に立つと思う」と回答した生徒は、国語では、全国より11パーセント、県より5パーセントを上回り、数学では全国平均、県平均よりともに10パーセント上回っている。

○家庭学習・読書習慣について

- ・「土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日どれくらい勉強をしているか」について、「3時間以上勉強をしている」と回答した生徒が、全国・県平均より5パーセント以上、上回っているのに対して、「家で計画を立てて勉強をしている」と回答した生徒は、県平均より13パーセント、全国より10パーセントほど下回っている。

- ・学校の授業時間以外に普段（月曜日から金曜日）、1日あたりどのくらい読書をしているかについて、30分以上読書をしている生徒は、全国平均より12パーセントほど上回っている。

○ICT機器活用について

- ・1,2年生の時、受けた授業では、「コンピュータなどのICT機器をどの程度使用したかについて」週1回以上と回答した生徒は、全国平均より16パーセント、県より10パーセント上回っている。
- ・「学習の中でコンピュータなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思う」と回答した生徒は全国平均より21パーセント、県平均より15パーセント上回っている。

○臨時休業中の生活について

- ・「新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、計画的に学習を続けることができた」と回答した生徒は、全国・県平均より5パーセントほど下回っている。
- ・「新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、規則正しい生活を送っていた」と回答した生徒は、全国平均とほぼ同等であるが、「ほぼ当てはまる」と回答した生徒は、全国・県平均よりも14%ほど下回っている。

IV総括

本校の3年生は、「学力調査」において、国語・数学とも全国平均・山梨県平均を上回る状況であることがわかりました。しかしそれに安心することなく、正答率をしっかりと分析し、より成果が上がるよう努めたいと思います。

「学習状況調査」において、生活習慣も安定していて、家族内でのルールもしっかり確立できていることがわかりました。また人間関係についても全体的に良好であることもわかりました。

学習面につきましては、家庭学習がまだ定着していない状況ははっきりしましたが、「学習意欲」や「学習の大切さの認識」が比較的高く、「考えることを嫌がらない」様子がうかがえることから、昨年度までの校内研究で目指した、「深い学びにつながる生徒同士の対話を意識した授業」が効果的に働いていたことが、学習成果につながったとも考えられます。

ICT機器の活用については、多くの生徒が期待を持っていることも確認できました。一人一台端末が導入されましたので、有効活用に努めていきたいと思います。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大が、生徒の生活面・学習面に暗い影を落としていたこともわかりました。収束に向かいつつありますが、より一層生徒一人一人の心のケアにも力を入れていきたいと思います。

今回の調査結果を全教職員で共有し、日々の授業の更なる改善に結びつけていこうと考えています。特に今年度は「ICTを活用した、個別最適化された授業づくり」を目指し、全校体制で研究に取り組んでいます。そのことが成果となって現れるようにしていきたいと思います。

また、家庭での学習時間の定着、自主的に学習に向かう環境づくりについては、ご家庭と連携した取組を継続していきたいと考えています。

今後も一層のご理解とご協力をお願いいたします。